



④園舎の設計やステンドグラスについて説明する西島正樹さん（右）と壁画家の松井エイコさん。3月16日、那覇市具志・にぬふあ保育園に設置された松井さんのステンドグラス作品「自らの力を」

# 成長願いステンドグラス

## 那覇「にぬふあ保育園」制作者ら講演

【那覇】那覇市具志の「にぬふあ保育園」に設置されたステンドグラスのお披露目会が3月16日、同園であった。制作した壁画家の松井エイコさんや園を設計した建築家の西島正樹さんによる講演もあり、保護者らが参加した。

同園は2021年4月に那覇市初のNPO法人運営による認可保育園として開園した。現在は0～5歳の70人が通っている。

ステンドグラスは園の中央に位置する階段に設置され、縦1・2段、幅1・2段の八角形の窓に置かれた。作品名は「自らの力を」。子どもたちが自ら立ち上がり、空に向かって手を広げる様子をモチーフに描かれたモザイク画で、園児の成長する力を表現した。

講演会で松井さんは、ステンドグラスの制作過程で園を

訪れた際に子どもたちが力いっぱい走り回っている姿や、赤ちゃんがはいはいして階段を行き来している様子を見て「人間の力強さを感じた」と作品に込めた思いを語った。

西島さんも園舎の設計に関して、沖縄の空気や風を園内で感じられるようにウッドデッキを作ったことや、保育室を五角形にしたこと、転落防止のための鉄格子をなるべく細かい材料にして原っぱや木の枝を連想させたことなどを話した。

同園を運営する「NPO法人うていーらみや」の仲本千佳子理事長は「北を示す『にぬふあ』の方向にステンドグラスが設置され、園舎が完成した。地域に受け入れてもらい、開園できたので、今後さまざまな縁をつなげて活動を続けたい」と意気込んだ。

（社会部・玉城日向子）